

外国語教育研究所は群馬県における外国語教育の拠点として、外国語教育の充実、地域社会への貢献、グローバル人材育成及び国際交流の促進に寄与することを目的として、様々な事業に取り組んでいます。

2021年明石塾 活動報告(10月～2月) 多くの「学び」がありました

2021年8月から始まった明石塾も、2月26日(土)に修了式を迎えました。大学教授陣による専門講義、研究員による英語講義、塾生同士での議論で学んだことを糧に、明石塾の目指す「国際的な視野と高い志、国際舞台上で堂々と発言し行動できる力を備えた人材」として塾生一人一人が活躍してくれることを期待しています。

2021年度
明石塾
研修計画

| 日付 | 午前研修・講義 10:00～12:30 | 午後研修・講義 13:30～16:00 |
|-----------|--|--|
| 10月16日(土) | ・ Environmental Issues 研究員 Mark | ・ グループ討議① (町田副所長) |
| 10月23日(土) | ・ Climate Change 研究員 Harry | ・ グループ討議② (町田副所長) |
| 11月13日(土) | ・ Population Growth 研究員 Timothy | ・ 社会人講師講義 桐生 愛さん (明石塾14期卒塾生) |
| 12月11日(土) | ・ Positive Intelligence 研究員 Milena | ・ 明石先生著書講読 (町田副所長) |
| 12月18日(土) | ・ Problems Facing the World in the 21st Century 研究員 Dermot | ・ 研究所係員講義 (江原主幹) |
| 1月29日(土) | 学内感染防止のため中止 | |
| 2月5日(土) | | |
| 2月19日(土) | ・ Final Presentation Preparation① Practicing Speeches 研究員 Harry | ・ 成果発表会準備 ・ 研修のまとめ (町田副所長) |
| 2月26日(土) | ・ Final Presentation Preparation② 全研究員 | ・ (13:00) 研修成果発表会 (公開) ・ (14:00) 修了式 (公開) |

社会人講義 IBM 桐生 愛さん(明石塾卒塾生) 11月13日

明石塾卒塾生(14期、2015年度)で、現在は日本IBMで活躍されている桐生愛さんを講師としてお招きし、「私にとっての明石塾」というテーマでご講義頂きました。明石塾から受けた影響や、その後の進路選択、現在も関心をもち続けている「難民問題」等について、具体例を出しながら分かりやすくお話し頂きました。先輩の活躍に塾生たちは大いに刺激を受け、自己の将来について真剣に考えていました。

【塾生の感想(抜粋)】

- ・ シリア・パレスチナ間のことや難民のことについて、私は知らないことだらけだったのですが、講義を聞き、故郷を追われた人の多さ、日本の難民認定率の低さなど本当にたくさんのお話を学ぶことができました。また明石塾のありがたさをあらためて感じました。多くのことを学び、考えを深め、興味をもって視野を広げるきっかけにもなる本当に素敵な場所だと思いました。
- ・ 桐生さんが明石塾に参加してから数年たった今でも、当時の明石塾の仲間たちと繋がっていらっしゃるということが素晴らしいと感じました。将来進む道はもちろん各々ですが、私も明石塾で出会った仲間を大切に、ずっと繋がっていたいと思いました。私にとっては難民と呼ばれる人々が身近な存在ではないということもあって、今まで興味をもちにくかったのですが、今回のご講義を聞いて、小さいことでも自分にできることがないか、探してみるつもりです。
- ・ ニュースで難民の方が日本に滞在しているときに亡くなってしまおうという事件は知っていましたが、なぜ難民申請が受理されにくいのかなどは考えたことがありませんでした。今回の講義で、難民問題は法務省の担当だということを知り、今回の事件をきっかけにもっと日本人が難民についてもっと知った方がよいと思いました。私は今年から選挙権をもつようになったので、そういう観点からも各政党が掲げる公約を見て、選挙に参加していきたいです。



桐生さんの講義▶



◀ 塾生との議論

成果発表会・修了式 2月26日

午前は、成果発表会に向けて研究員から英語の発音や表現などの最終チェックを受けました。その後の懇談会では研究員から激励の言葉をもらいました。午後は保護者にも公開し、成果発表会が実施されました。塾生一人一人が半年間での学びや気づき、自身の変化について堂々と英語で発表していました。

成果発表会後は、修了式が行われました。小林良江塾長は「進学する大学も違うでしょう。そして専門分野も違う、将来働く場所も違う、そういう仲間がいるということは、皆さんの人生にとって本当に大きな宝物になると思います。是非大事にしてください。」と式辞を述べました。塾生を代表して小代美園さん（前橋女子高校1年）は、「それぞれの夢や進路は異なりますが、明石塾で学んだことを生かして、私たちは社会に貢献できる人になれると確信しています。」と答辞を述べました。



研究員によるプレゼン指導



塾生の英語による成果発表



学長式辞



塾生代表答辞

【明石塾を終えての塾生アンケートより (抜粋)】

- ・世界には自分の知らない社会問題が溢れていること、自分が知っているつもりになっている物事も、自分が思っているよりもずっと複雑なものであることに気がつき、様々なことについてもっと詳しく知りたいと思えるようになりました。多くの学びに加えて、英語研修や講義をしてくださった先生方や友達など、友達など素敵な人たちとの出会いがあって本当によかったと思っています。
- ・挑戦して本当に良かったと感じた半年間でした。他の塾生が優秀すぎたので、初めは私がなぜ合格できたのだろうかという場違い感をすごく感じていましたが、「完璧な英語を話さなくても良い」、「間違えても大丈夫」という雰囲気があり、だんだんと自分の意見を述べられるようになりました。また、他人と違う意見や考えでも否定されず、受け入れ認めてくれるため話しやすかったです。なによりも、様々な分野に触れられる機会を設けていただき、視野や知識を広げることができました。加えて、普段交流することがない同年代の他校の塾生から、自分にはない貴重な意見を聞くのは楽しかったです。ボーッとしていたはずなのに時を過ごしていた土曜日を、明石塾が変えてくれました。感謝しかありません。
- ・私は明石塾への参加を通して、自分の意見を相手にしっかりと伝えられるようになった点と、間違いを恐れずに英語を使うようになった点で特に成長できたように感じます。また、英語研修もご講義も毎回充実していて、参加する度にさまざまな発見や学びがありました。短い間でしたが、明石塾への参加は普通の高校生活では得られないたくさんのことを得られた半年間でした。とても満足していますし、明石塾に参加できたことを誇りに思います。

高等学校連携英語授業 英語授業のレベルアップを支援します

県立女子大学で日々レベルの高い講義をしている研究員が、高校の課題やニーズに合わせて英語授業を行っています。令和3年度後期は、高崎女子高校、沼田女子高校、伊勢崎高校、四ツ葉学園中等教育学校、高崎商業高校の5校を対象に連携授業を実施しました。

四ツ葉学園や高崎商業高校では、SDGsのテーマである“Climate action”や“Sustainable cities and communities”などを扱い、研究員が資料や動画などを使って考えるヒントを共有し、活発な議論や活動がなされました。また、伊勢崎高校ではディベートの基礎、高崎女子高校では「外国人から見た日本」をテーマにオンライン形式で議論しました。研究員とやりとりをする中で、生徒たちも英語で学ぶ楽しさを実感しているようでした。今後も本事業を通して、高校との連携強化を推進して参ります。



伊勢崎高校



四ツ葉学園中等教育学校



沼田女子高校



高崎商業高校

English Help Desk 英語に関するお悩み、解決します

研究員が直接本学学生に指導することを通して、英語に関する学習法や悩みの解決など、学生の英語力向上を支援するため、English Help Deskを設置しています。英会話をはじめ、英語プレゼン指導、英作文や論文のネイティブチェック、資格試験の英語面接対策など、学生からの依頼に熱心に研究員が指導しています。また、大学院入試の英文和訳や英語の学習法など、内容によっては研究所の日本人係員が指導に当たっています。令和3年度は延べ128人の学生が利用しました（3月22日現在）。



研究員と英会話

留学支援 世界とつながるチャンスを提供し続けます

昨年9月から、交換留学は再開し、2名の学生がカナダ（ヒューロン大学）で学んでいます。また、留学を経験した先輩たちが、後輩に留学の醍醐味や、苦勞、就活などへの影響について語る「留学体験者座談会」を実施しました。外国語教育研究所は、コロナ禍においても、前向きに世界とつながろうとする県女生を支援しています。

「留学して思うこと」 国際コミュニケーション学部3年 安澤彩夏さん

留学では言語のみならず、予想以上に学べるものがありました。住居探しや携帯電話の契約、銀行口座の開設まで、手続きはほぼ全て自分で英語を使って行いました。初めての海外生活で不安に思ったり大変さを感じたりすることはありましたが、一つ一つ自分でこなしていくことで達成感が得られ、自信ができました。大学には留学生在が想像以上に多く、彼らのネイティブと変わらない英語力にもかなり刺激を受けました。また彼らとの会話を通して、日本で生活しているだけではわからない世界の広さ、生き方の多様性、多文化多民族に対する柔軟な姿勢を実感し、同時に自分の未熟さも痛感しました。大学の授業内では学生が、先生が話している間でも次々と挙手をし、思ったことや疑問を発言していきます。初めは日本との違いに圧倒されましたが、現在は様々なバックグラウンドをもった学生たちと肩を並べて授業を受けられるこの貴重な環境に幸せを感じています。また日本から離れたことで、今まで気づけなかった日本の良さや、知らなかったことの多さも感じています。カナダでの生活も残り短いですが、悔いのないよう、より多くのことを経験していきたいと思います。



ヒューロン大学構内にて

留学体験者オンライン座談会 1月27日(木)／28日(金)

県女生同士の温かい雰囲気の中、留学を体験した先輩たちが留学先選定や語学力、留学での失敗談など、ユーマアを交えながら語っていました。また、1, 2年生は、現地での生活、授業、現地学生との交流など積極的に質問をしていました。今後も、留学に関する学生同士の交流、情報交換の場として、このような座談会を開催していきたいと考えています。



長期留学体験者座談会（27日）



短期研修体験者座談会（28日）

玉村小学校の英語授業支援 研究員が「ゲストティーチャー」として交流

玉村町教育委員会との連携事業として、玉村小学校で初めて英語授業支援を行いました。6年生が授業で学習した「食物連鎖」について、それぞれのタブレット端末を使って英語でプレゼンテーションを行い、それに対して研究員が質問をしたり、感想を述べたりしました。本学の教職志望の学生も加わり、英語を楽しく話す雰囲気を作ることができました。振り返りの時間に、「最初は不安でしたが、先生たちに繰り返し聞いてもらうことで、自信をもって発表することができました」と発言をする児童もいて、学びの多い授業となりました。今後も地元玉村町との連携を深め、地域に貢献してまいります。



「ゲストティーチャー」と児童の交流

明石杯高校生英語コンテスト 熱戦が繰り広げられました

11月12日(金)に明石杯高校生英語コンテストが本学を会場に実施されました(県高等学校英語部会、群馬県教育委員会との共催)。地区予選を含め161名が参加し、予選を勝ち抜いた生徒78名が本選に出場しました。感染防止を図るため、開会式等は実施せず、午前の部と午後の部に分けて行われました。

プレゼンテーションの部の今年度のテーマは“How can we achieve SDGs?”でした。各地区の予選を勝ち抜いてきた高校生たちが練習の成果を存分に発揮していました。

2021年明石杯高校生英語コンテスト 結果

| 部門 順位 | プレゼンテーション | レシテーション | スピーチ第1部 | スピーチ第2部 |
|----------|----------------------|---------------------|---------------------|---------------------------|
| 1位 | レイセル アン (渋川工業 1年) | 山本 純寧 (共愛学園 1年) | 徳留 雪月 (中央中等 5年) | インシラ アリ (伊勢崎商業 1年) |
| 2位 | 平柳 智明 (高崎 2年) | 小内 光 (館林女子 2年) | 金田 仁愛 (新島学園 2年) | 鴨田 萌愛 (中央中等 4年) |
| 3位 | 宮前 良亮 (高崎北 2年) | 諸田 あゆみ (共愛学園 1年) | 高橋 弥瑠 (桐生 2年) | 田島 健太 (盲学校 1年) |
| 4位 | 菊川 心平 (前橋 2年) | 深澤 真那 (太田女子 1年) | 矢島 弦三 (渋川 1年) | |
| 5位 | 坂本 怜央 (高崎経大附 2年) | 小暮 志織 (富岡 1年) | 山田 小夜子 (共愛学園 2年) | |
| 6位 | | 手島 瑠美 (富岡 1年) | 依田 望 (前橋女子 1年) | |
| 特別賞 | 細野 由真 (四ツ葉学園 5年) | 五十棲 まり (吉井 2年) | 富所 蒼空 (共愛学園 3年) | ウィザロー・ジェームズ (四ツ葉学園 4年) |

ぐんまオンライン英語ディスカッションプログラム 高校生と研究員がディスカッション

外国語教育研究所と群馬県教育委員会が連携して、研究員と県内高校生が、毎週木曜日、午後6時30分から7時30分までの1時間、1グループ4、5人に分かれてディスカッションしました。身近なことから、抽象度の高い内容まで、幅広いテーマを扱いました。研究員が話しやすい雰囲気を作り、高校生も知らず知らずのうちに積極的に発言して、英語を使う楽しさを味わっていました。ディスカッション終了後、高校生同士だけで交流を図る場面も見られました。令和3年度は年間15回、26校、延べ49名の参加申込みがありました。



参加している高校生と研究員

